

# 長期ステロイド使用後に全身症状を経験した成人アトピーの経過（35 歳女性）

症例 ID：001-30-AT0 | 記録日：不明

## 1. 診断・治療前経過

30 年以上にわたりステロイド外用薬を使用してきた経過がありました。育児と仕事に追われる中で、すぐに症状が目立たなくなる薬に頼る状態が続いていました。

平成 6 年 4 月末、漢方による治療を探していた時期に松本医院を受診されました。受診前からリバウンドについては知っており、長期のステロイド使用歴があることから、強い反応が出る可能性を説明されていました。

## 2. ステロイド使用歴

| 項目    | 内容                                        |
|-------|-------------------------------------------|
| 使用内容  | 30 年以上、アトピー性皮膚炎に対してステロイド外用薬を使用していました。     |
| 製品名   | 不明。                                       |
| 強度    | 不明。                                       |
| 使用期間  | 30 年以上。                                   |
| 中止時期  | 平成 6 年 4 月末の松本医院受診後にステロイドを使用しない方針へ移行しました。 |
| 来院前／後 | 来院前に長期使用歴があります。来院後の使用は不明です。               |

## 3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

| 時期          | 治療開始から      | 経過                                                                                                                               |
|-------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成 6 年 4 月末 | 治療開始        | 松本医院を受診し、漢方煎じ薬を飲み始めました。開始後すぐに皮膚が反応し、もともと黒ずんでいた皮膚が強い火傷のようにズルズルした状態になりました。                                                         |
| 開始直後～数日     | 急性期         | 顔は強く腫れ、身体全体の皮膚が剥けるような状態となり、リンパ液で衣類が常に濡れていました。身体中が腫れ、数日間は布団に潜って過ごすほどでした。                                                          |
| 同年夏頃        | 一時的に社会復帰    | 会社に行けるようになりましたが、目や口の周り、首、脇、肘裏、太もも裏から膝裏まではリンパ液が出ており、かゆみも残っていました。徐々に薄い皮膚が張ってきました。                                                  |
| 同年 10 月頃    | 再燃期         | 目のかゆみが強く、白目が膨らんで瞼が閉じにくいほどの炎症が出ました。肘裏から全身へ急激なかゆみが広がり、掻くと赤い皮膚となって皮膚が張りにくい状態でした。顔にはマスク、首・指・手の甲・肘裏にはガーゼ、膝裏には子どものおしめを使って包帯代わりにしていました。 |
| 平成 7 年 5 月頃 | 治療開始から約 1 年 | 赤い皮膚だった部分に皮膚ができ始めました。右手の甲、目の周り、口の周り、膝裏、首、肘裏、左手の甲の順に皮膚が丈夫になってきました。掻いても皮膚が崩れにくくなり、入浴後には皮膚が張りやすくなりました。                              |

## 4. ピーク時期

ピークは、治療開始直後の全身の腫れ、皮膚の剥離、リンパ液の多量漏出が重なった時期と、同年10月頃に目・肘裏・全身のかゆみが再び強くなった時期です。衣類が濡れるほどの浸出、マスクやガーゼで患部を覆う必要がある状態、仕事や家事・育児への支障がみられました。

## 5. 患者さん・家族の困りごと

---

- ・長期のステロイド使用歴があり、リバウンドへの不安が大きい状態でした。
- ・リンパ液で衣類が濡れ、皮膚の処置や着替えが必要でした。
- ・会社を休み、家事や育児を家族に頼る時期がありました。
- ・一度峠を越えたと思った後に再燃し、精神的な負担が大きくなりました。

## 6. 経過のまとめ

---

平成7年5月頃には、それまで赤く崩れやすかった部位に皮膚ができ始め、右手の甲、目の周り、口の周り、膝裏、首、肘裏、左手の甲の順に皮膚が丈夫になる変化がみられました。

通院から約1年後には掻いても皮膚が崩れにくくなり、入浴後に皮膚が張りやすくなるなど、生活上の支障も軽くなっていました。強いリバウンドや再燃を経ながらも、生活上の負担が軽減された症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。  
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。